

世界樹の森のわ



28
後編

18
FOR ADULT ONLY
かぜうま



んむ……ん……

んむ……ん……
んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……

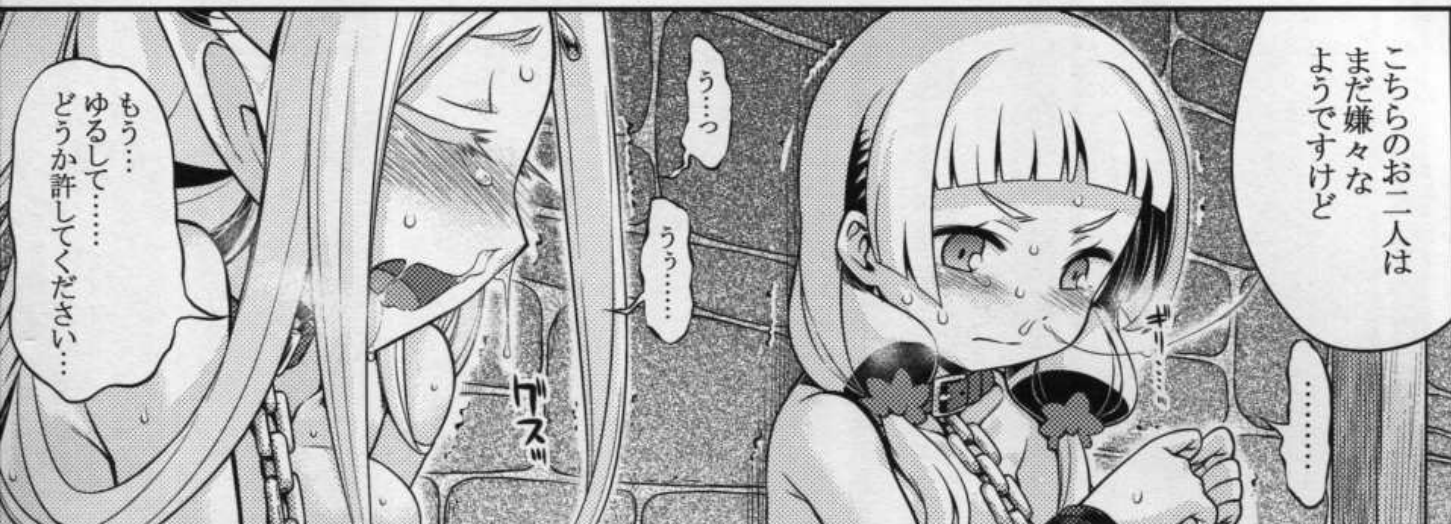
んむ……ん……

んむ……ん……

んむ……ん……



あちらのお二人は
すっかり現状を
受け入れてくれた
みたいですね



こちらのお二人は
まだ嫌々な
ようですけど

もう...
ゆるして...
どうか許してください...



お二人は今日は
休憩に
してあげます

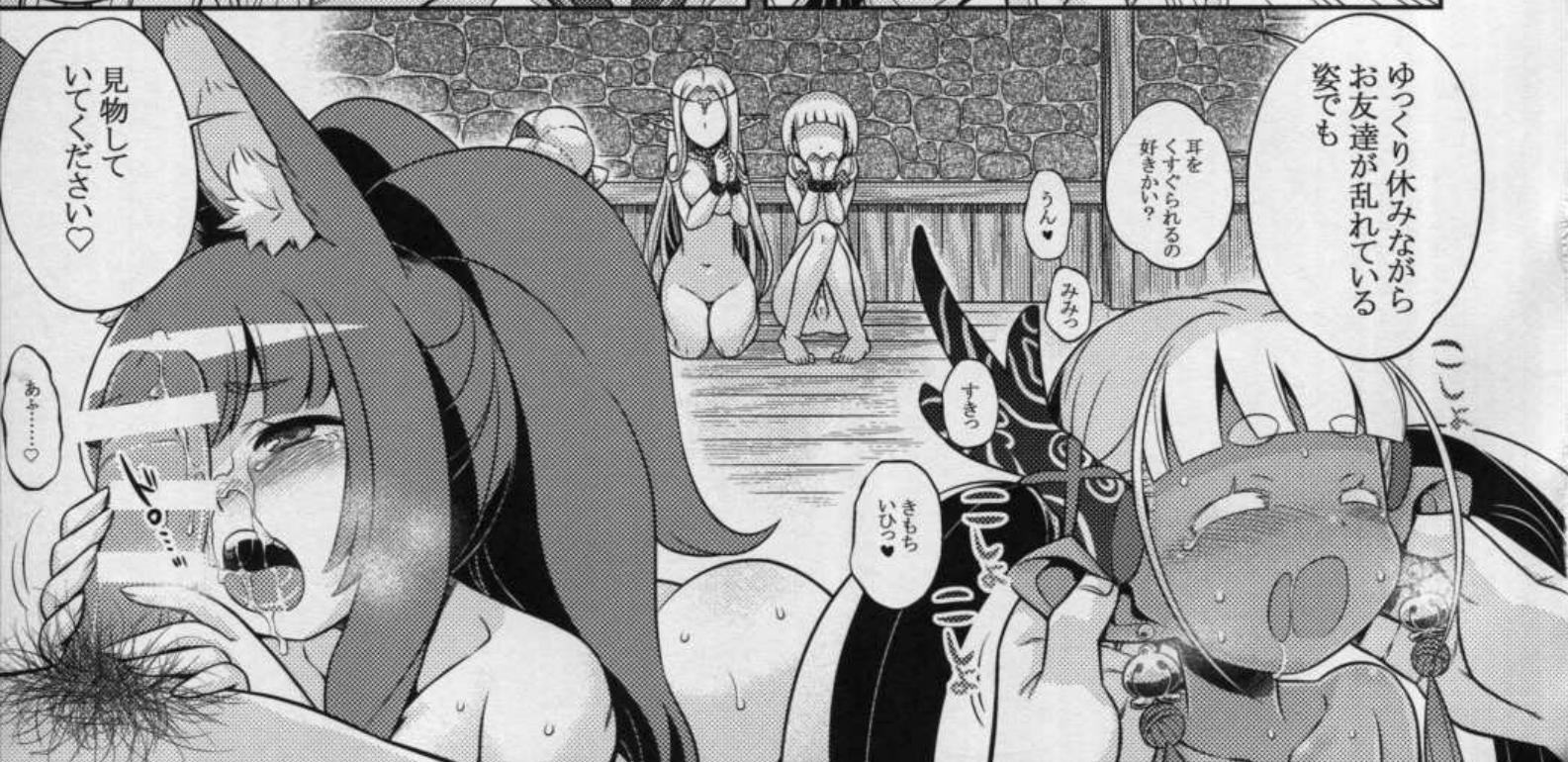
ほ...本当に

ホントですよおー
安心して下さい



いいですよ☆

...えっ!?



ゆつくり休みながら
お友達が乱れている
姿でも

耳を
くすぐられるの
好きかい?

うん
みみ
すき

きまわり
いびき

見物して
いてください♡

あ...

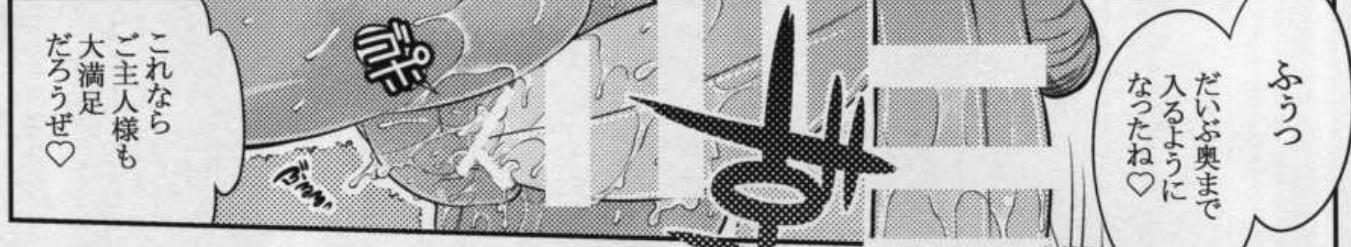


う……っ
出すぞ……っ！

ふんふん……っ♡

ふんふん……っ♡
はっはっ

ふんふん……っ♡
はっはっ



ふうっ
だいぶ奥まで
入るようになったね♡

これなら
ご主人様も
大満足
だろうぜ♡



少し休憩したら
またしよっか♡



びびびびっ
びびびびっ

ふんふん……っ♡

ふんふん……っ♡







どーしたの
ずいぶんと積極的
じゃないの

なになに

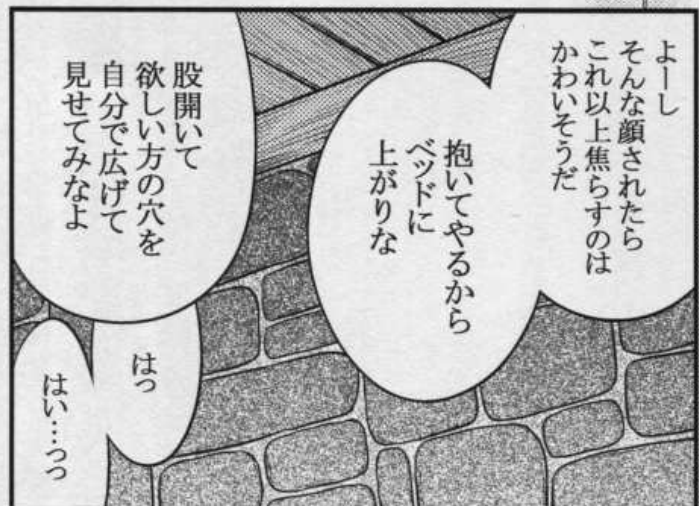
お？



くくく
物欲しそうな顔しやがって

あぁ……

はぁ……



よし
そんな顔されたら
これ以上焦らすのは
かわいそうだ

抱いてやるから
ベッドに
上がりな

股開いて
欲しい方の穴を
自分で広げて
見せてみなよ

はっ

はい……っ



はやく...おねがい
しますうっ

はっ
はやく...うっ

うっうっ
うっうっ
うっうっ

うっうっ
うっうっ

はっ

はっ

はっ

わかったわかった
お望み通り
一気に
突き入れてやる...



ぜ♡





美味そうに
頬張りやがって
そんなにいいか？

ははは

次からは
つまんねえ
意地張らずに
股開けよ

よし
ご主人様を
満足させるための
腰使いもたつぷり
仕込んでやるぜ







私…も……
おか…し…て
ください……

うふふ

こんなに
ねぼつたの
あなたが初めて
ですよ
フエンサーさん
新記録です♪

記念に
もう一回
くちゅくちゅ
してあげますね〜



はい♪
くちゅ
くちゅー♪

これでぼつちり
発情しまくり
ですわー♡



さて……
それじゃあ



今日はもう
遅いですし

お開きに
しましょうか
みなさん

へーい

え……



おっお願いじゃまずっ



ダメです♡

そんな…そんなっ



あ……まじ

まじっ……

どきどき

私もっ

私……にも
挿れて…挿れてくださいっ
まじっ……



お願いします...
おねがひ
しますううう

みなさん
よーく見ておいて
くださいね

今後逆らったら
ああなります
からね

もう限界
なんです

おねがひ
します



もう
逆らえません

おねがひ
します

おねがひ
します

おねがひ
します

おねがひ
します

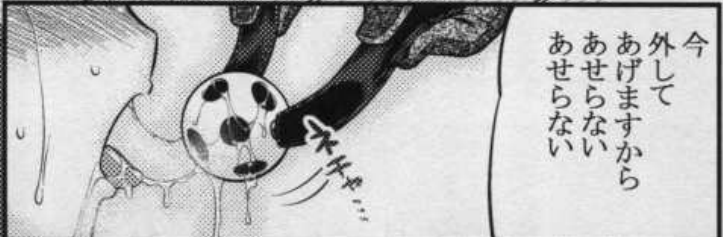
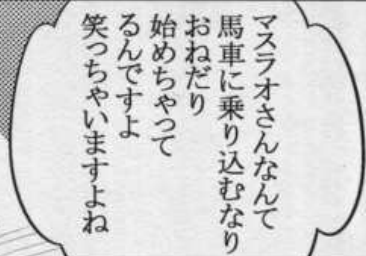
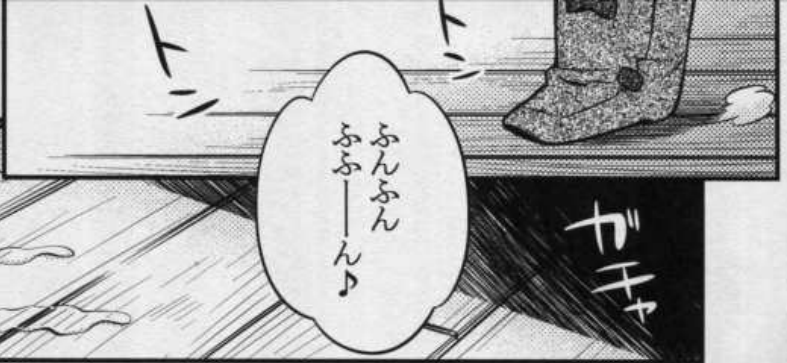


明日以降は
最初から素直に
なれています
いいですね

それじゃあ

また明日♡







やあ
しばらくだね

君の純潔を
奪った時以来だ
あれは実に甘美だったよ

先ほども
私の息子がお世話に
なってしまったね

ご褒美に
君の望むことを
してあげよう

そういえば
必死になにかを
求めていたね

さあなにがしてほしいか
もう一度
言ってみませんか？

叶えて
あげようじや
ないか



私……を……

犯して……
ください……

ご主人様……

ふふ…
あの凛々しかった
貴女がこんな
なるとは

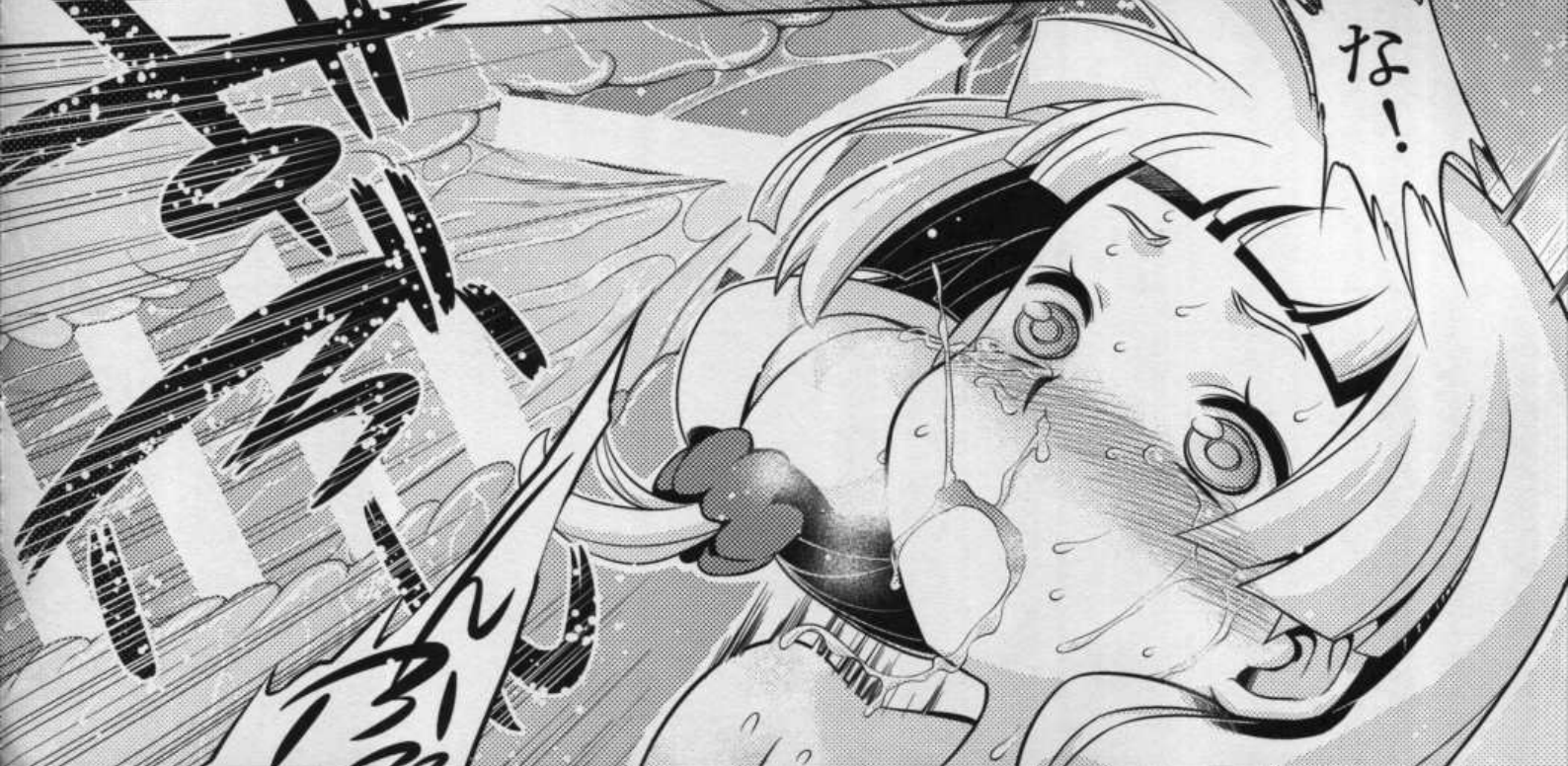
いいでしょう
望み通り犯して
あげましょう



おやおや

今更焦らすのは
少々いじわる
だったか…

な!



また達したのかい？
少しは我慢
したらどうだ



そんなに私に突かれるのは
気持ちいいのかな？

あ...すつ
すつと...

すつと...
おあすけ
されでだから
ガマン...
できません...

い...ですつ

あ...すつ
すつと...

あ...すつ
すつと...

では絶頂できたし
もう満足したかな？



まだ...

もつと...もつと
イギだいですつ



特別に今は
好きなだけ
イクことを
許してあげよう



ふう...
それにしても
貴女の締め付けが
きつくて私も早々に
達してしまいそうだよ





孕みなさい!



今日のために
あれから
ずっと溜めていた
甲斐があったよ



この吸い付き……！
実に名器だ

ん？
どうしたんだい？
力が抜けてしまっ
ているようだが

また気をやったね
何度目だい？

あ……腰から下……が……
自分のじゃ……
ない……みたい……に……
ちか……ら……
はいち……な……て……

腰が抜けたか
しかし君は私の
性奴隷だ
私が満足するまで
休憩は出来ないよ



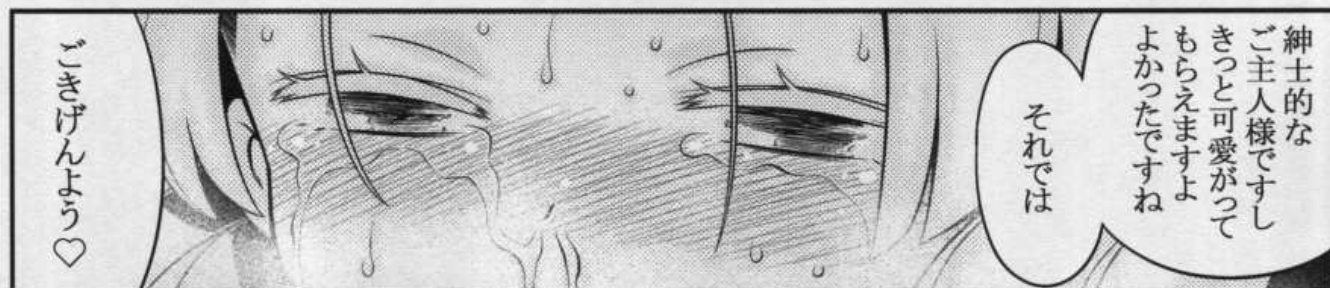


ああいいっ
実にいい具合ですよ
絶頂しつぱなしの
貴女の膣は！

意識も飛び飛び
なのに吸い付くのは
やめようとも
しない

しかし私もそろそろ
限界だ…これで
フィニッシュにすると
しましようかッ

子宮で
受け止めなさい！







ふざるなんて
とんでもない

俺ら姉さんの
葉の力知ってますもん



ほら強がってても
もう乳首もビビビビと
勃ってますよ



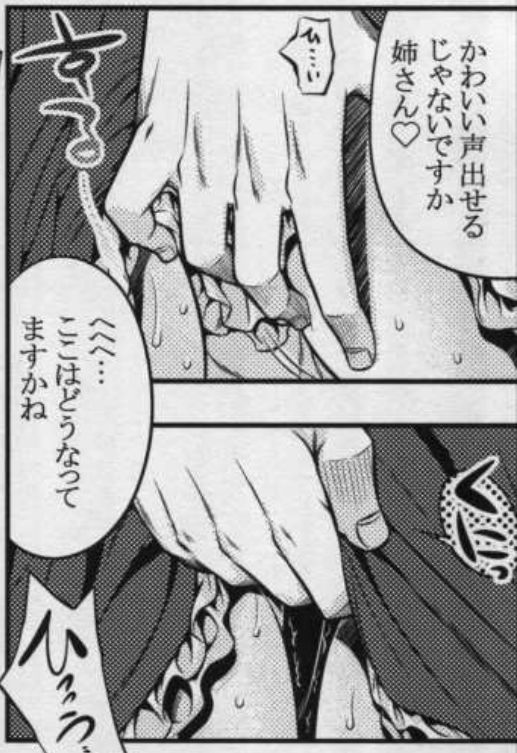
や

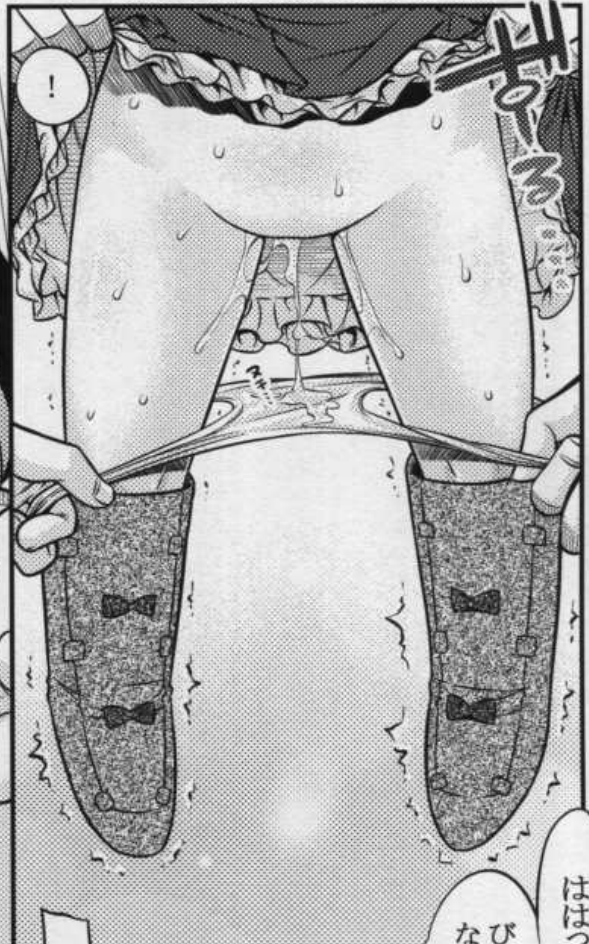
やめ



かわいい声出せる
じゃないですか
姉さん♡

くくく...
こいほどうなって
ますかね





ははっ
びつちやびつちや♡
なーんだ



ちっ
ちがっ

姉さんも
とつくに挿れて
ほしいんじゃ
ないですか



これなら
即ハメOKスね



おっ
気分出てきた
じゃないですか

ぐちやぐちやに
濡れてて具合いいッすよ
姉さんの臆内♡

どんどん
いきましよー♡



おねがいの

おろしてっ

おろしてええ



お腹が熱いつ

ジンジンするの
おまんこ
切ないよおっ



わかんないよ

ダメっすよ
姉さん

オナニー
自分でなんて
させませんよ
姉さんにあげるの
俺らのチンポだけだす



はははっ
即堕ちじゃあ
ないですか
元々ピッチ
なのか

じゃなけりや
よっぽどヤバイ薬
調合したんスね
さすがッス

じいさん
さようなら
さようなら
さようなら



心配しなくても
全員で輪姦して
あげますから

ほら……よっつー！



仕上がり
予定よりもだいぶ
早かったね

ええとんだ
ピッチですよ

放っておくと
すぐにオナニー
始めちゃうんで
拘束して転がして
あります

薬は定期的に
嗅がせてるんで
発情しっ
ばなしですよ

フチャ

ふふふ
それは愉しみだ
たつぷり慰めて
やらんとう



んんん...

んんんんん

んんんんん

んんんん

んんんんん

んんんんん

んんん

んんん

んんんんん

これは
これは……

そんなに
ワシが
待ち遠しかった
のか愛いやつめ

ほっほっほ
ならば今すぐ
皆の目の前で
するか？

おは
おは
おは

数カ月後

すっかり
大きくなったね
すぐにでも
産まれそうだ

君によく似た
可愛らしい子だと
いいね♡

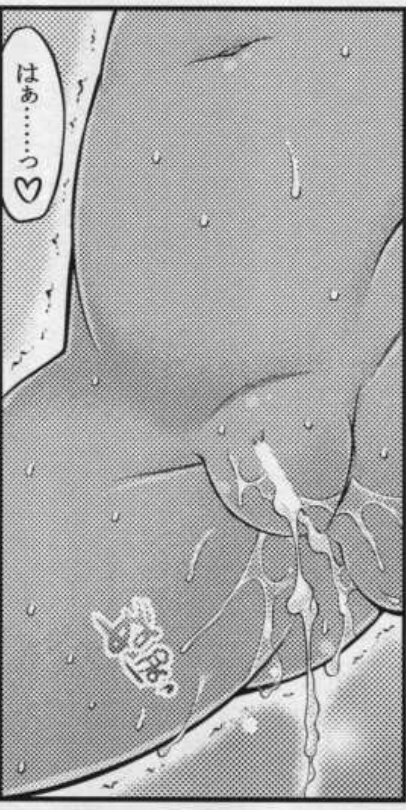
出産がすんだら
すぐに次の子を
仕込んであげるよ…
君には十人は産ませる
つもりだから
そのつもりでね

……はい……

さす

おは
おは
おは

おお……っ
締めまりよる
こりやたらまん
出すぞ……!!



ふう……
さて次は……

ん？

なんだ

また勝手に
オナニー
自慰を
しておるのか



—あれから、いったいどれほどの時が経ったのか。暦を数えることも忘れる恥辱の日々を送った少女。彼女は今、街外れにある孤児院のシスターとして子供たちの面倒を見ていた。屈託のない笑顔を見せ集まってくる子供たち。子供たちは彼女にとてもよく懐いてくれた。彼女は子供たちに「ママ」と呼ばれていた。その度に嬉しさと、愛おしさと、そして心に刺さる痛みを、彼女は感じるのだった。

何度も陵辱と出産を繰り返された少女は実に11人の子を産み落としていた。孤児院に預けられた子供たちの人数は、11人。しかし名乗ることは許されない。その事が伝われば、たちまち孤児院への出資を止められてしまうからだ。これだけの子供たちを自分の力だけで養う術を彼女は知らない。

自らを、執拗に陵辱した男の子供たち。憎くないと言えれば嘘になるかもしれない。しかしそれでも、彼女は子供たちを憎みきめることはできなかった。どれほどあの男が憎くとも、この子たちに罪はないのだから。葛藤を抱えながら、勝手も分からず、それでも精一杯の愛情を持って接するうちに、自然と子供たちを愛せるようになった彼女。今、ようやく、あの男の手の平の上の仮初とはいえ、平穩を手に入れたのだ。

ある日、子供たちにここに来る前は何をやっていたのかと尋ねられる彼女。まさか奴隷であったなどと言える訳もなく、つい言葉にしてしまった一言。

「私は【冒険者】をやっていた」のだ、と

未だ踏破されぬ伝説の世界樹。子供たちは目を輝かせ言い聞かせる冒険の話に耳を傾けた。それからまたいくばくかの時が経ち。長女が、大好きなママの果たせなかった世界樹踏破を自分が叶えるのだと、【冒険者】としてアイオリスへと旅立っていった。正直なところ不安であり、何度も思い直すよう求めたが長女の意味は固く、引き止めるには至らなかった。

自分では数度足を踏み入ただけで、強制的に終わらせられてしまった世界樹の迷宮での冒険。まるで若き日の自分の生き写しのように育った娘が、日々の出来事を書いてよこす手紙には、かつて夢見た心躍る冒険が綴られている。

羨望と、少しばかりの嫉妬を感じながら、娘の充足に目を細める日々も、そう長くは続かなかった。

毎週欠かさず送られてきた娘からの手紙が途絶えてしまったのだ。

迷宮は危険な場所。自分がいた短い間でさえそういう話はいくつもあった。

それでも娘の無事を祈らずにはいられない。どうか、手紙を書く時間さえないほど忙しいだけであってほしい。と。

手紙が途絶えてから一月と少しのある日、その日も娘の無事を神に祈っていた彼女は、数年ぶりに あの男 から呼び出された。

気は重かったが他の子たちのためにも断ることは許されない。

「お久しぶりです。ご主人様」

頭をたれる彼女を、かつて自分を最高に辱める時に見せていたあの下卑た笑顔が出迎えた。暗い思い出しかない屋敷を男に従い歩く。そこに近づくたびに重くなる足取り。震える手足。高鳴る動悸。何度も何度も辱めを受けた「あの部屋」の扉を、自ら開くよう促される。意を決し、重い扉を開く。

そこで 彼女が見たものは—————

- 誌名 : 世界樹のあのね28 後編
- 発行 : かぜうま
- 発行者 : 南☆
- 発行日 : 2017年2月26日
- 連絡 : isogai@big.or.jp
- 印刷 : ねこのしっぽ

FOR ADULT ONLY

2012 Original: KAZEUMA MINAMI★STAR

SEKAIJUNOANONE28Latter

ANONE SERIES:VOLO57

